

# 工業用水道事業特別会計



## 1 事業の概況

### (1) 業務実績

工業用水道事業においては、一倉工業団地などの事業所への安定的な給水に努めている。

当年度の給水事業所数は4箇所、年間契約水量は175,200 m<sup>3</sup>、年間総給水量、年間総有収水量はいずれも138,946 m<sup>3</sup>で、年度有収率は100.0%となっている。

これを前年度と比較すると、給水事業所数は同数、年間契約水量も同量で、年間総給水量、年間総有収水量はいずれも1,828 m<sup>3</sup> (1.3%) 減少している。年度有収率は前年度と同率である。

#### 業務実績

区 分	単位	30 年 度 (A)	29 年 度 (B)	前 年 度 比 較	
				増 減 (A)-(B)	増 減 率
給 水 事 業 所 数	箇所	4	4	0	—
給 水 件 数	件	4	4	0	—
年 間 契 約 水 量	m <sup>3</sup>	175,200	175,200	0	—
年 間 総 給 水 量	m <sup>3</sup>	138,946	140,774	△ 1,828	△ 1.3 %
一 日 平 均 給 水 量	m <sup>3</sup>	381	386	△ 5	△ 1.3 %
年 間 総 有 収 水 量	m <sup>3</sup>	138,946	140,774	△ 1,828	△ 1.3 %
年 度 有 収 率	%	100.0	100.0	ポイント 0.0	—

### (2) 建設改良事業等

当年度は、建設改良工事は行っていないが、保存工事として、一倉工水配水池東側槽内防水修繕等を行った。

## 2 予算の執行状況

### (1) 収益的収入及び支出

収益的収入は、予算額 682 万円に対し、決算額 690 万円で、7 万円の増、収入率は 101.1%となっている。決算額が増となった主な要因は、基本使用水量を超えて使用した超過使用水量による超過料金の発生に伴う、営業収益の増である。

収益的支出は、予算額 670 万円に対し、決算額 639 万円で、30 万円の不用額が生じ、執行率は 95.5%となっている。不用額の主なものは営業費用である。

#### 収益的収入及び支出

##### 収入

(単位：千円, %)

区 分	予 算 額 (A)	決 算 額 (B)	予算額に比べ 決算額の増減	収入率 (B)/(A)
工業用水道事業収益	6,829	6,903	74	101.1
営 業 収 益	6,622	6,684	62	100.9
営 業 外 収 益	207	218	11	105.8

##### 支出

(単位：千円, %)

区 分	予 算 額 (A)	決 算 額 (B)	翌年度 繰越額	不用額	執行率 (B)/(A)
工業用水道事業費	6,700	6,399	0	300	95.5
営 業 費 用	6,600	6,399	0	200	97.0
予 備 費	100	0	0	100	—

### (2) 資本的収入及び支出

資本的収入及び支出は、予算措置をしていない。

### 3 経営成績

経営成績をみると、総収益は 690 万円、総費用は 639 万円で、差引き 50 万円の純利益となっている。

これを前年度と比較すると、総収益は 4 千円、総費用は 32 万円それぞれ増加し、純利益は 32 万円減少している。

#### 経営成績の推移

(単位：千円,%)

年 度	総 収 益		総 費 用		損 益 (A) - (B)
	金 額 (A)	対前年度 増 減 率	金 額 (B)	対前年度 増 減 率	
2 6	9,220	△ 0.5	8,881	△ 0.7	339
2 7	7,662	△ 16.9	7,172	△ 19.2	489
2 8	6,969	△ 9.0	6,374	△ 11.1	594
2 9 (C)	6,898	△ 1.0	6,073	△ 4.7	825
3 0 (D)	6,903	0.1	6,399	5.4	504
前年度比較 (D) - (C)	4	-	325	-	△ 320

(1) 総収益

営業収益は 668 万円で、前年度と比較して 8 千円減少している。この要因は、年間総超過使用水量の減少による給水収益の減である。

営業外収益は 21 万円で、前年度と比較して 1 万円増加している。

総収益構成

(単位：千円,%)

区 分	30 年 度		29 年 度		前 年 度 比 較	
	金 額 (A)	構 成 比	金 額 (B)	構 成 比	金 額 (A)-(B)	増 減 率
営 業 収 益	6,684	96.8	6,693	97.0	△ 8	△ 0.1
給 水 収 益	6,684	96.8	6,693	97.0	△ 8	△ 0.1
営 業 外 収 益	218	3.2	205	3.0	13	6.7
受 取 利 息	57	0.8	82	1.2	△ 25	△ 30.4
長 期 前 受 金 戻 入	161	2.3	122	1.8	38	31.5
雑 収 益	0	0.0	0	—	0	皆増
合 計	6,903	100.0	6,898	100.0	4	0.1

(2) 総費用

営業費用は 639 万円で、前年度と比較して 32 万円増加している。この主な要因は、減価償却費が 35 万円減少した一方で、原水及び浄水費が 51 万円、資産減耗費が 15 万円それぞれ増加したことである。

総費用構成

(単位：千円,%)

区 分	30 年 度		29 年 度		前 年 度 比 較	
	金 額 (A)	構 成 比	金 額 (B)	構 成 比	金 額 (A)-(B)	増 減 率
営 業 費 用	6,399	100.0	6,073	100.0	325	5.4
原 水 及 び 浄 水 費	4,458	69.7	3,940	64.9	518	13.1
業 務 費	10	0.2	10	0.2	0	0.6
総 係 費	99	1.5	93	1.5	5	5.7
減 価 償 却 費	1,671	26.1	2,028	33.4	△ 356	△ 17.6
資 産 減 耗 費	158	2.5	0	—	158	皆増
合 計	6,399	100.0	6,073	100.0	325	5.4

次に、性質別費用を前年度と比較すると、増減額の大きなものは、減価償却費が 167 万円で 35 万円の減、一方、修繕費が 88 万円で 20 万円の増である。

性質別費用構成

(単位：千円, %)

区 分	30 年 度		29 年 度		前 年 度 比 較	
	金 額 (A)	構 成 比	金 額 (B)	構 成 比	金 額 (A)-(B)	増 減 率
動 力 費	2,380	37.2	2,232	36.8	147	6.6
減 価 償 却 費	1,671	26.1	2,028	33.4	△ 356	△ 17.6
委 託 料	789	12.3	783	12.9	5	0.7
修 繕 費	889	13.9	680	11.2	209	30.7
そ の 他	667	10.4	347	5.7	319	91.8
合 計	6,399	100.0	6,073	100.0	325	5.4

### (3) 供給単価及び給水原価

有収水量 1 m<sup>3</sup>当たりの供給単価は 37.97 円、給水原価は 35.43 円であり、供給単価が給水原価を 2.54 円上回っている。

これを前年度と比較すると、供給単価は 0.02 円減少し、給水原価は 1.65 円増加している。

また、給水原価の主なものは、動力費が 13.52 円、減価償却費が 9.50 円となっている。

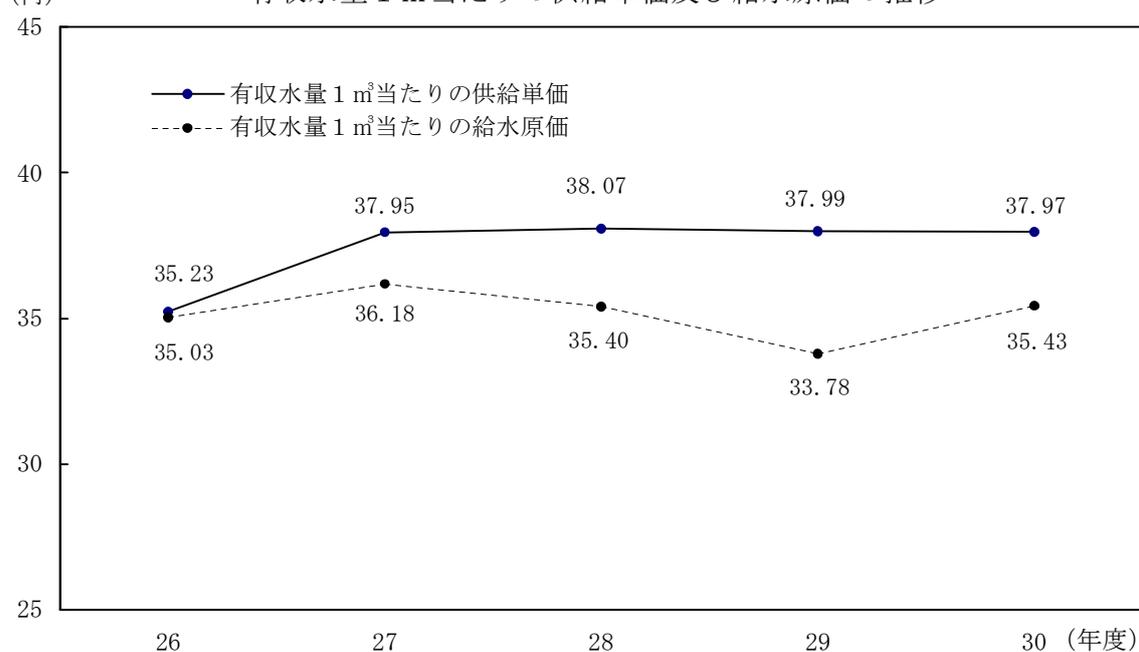
有収水量 1 m<sup>3</sup>当たりの供給単価及び給水原価の比較

(単位：円, %)

区 分	30 年 度		29 年 度		前 年 度 比 較		
	金 額 (A)	構 成 比	金 額 (B)	構 成 比	金 額 (A)-(B)	増 減 率	
供 給 単 価 (C)	37.97	—	37.99	—	△ 0.02	△ 0.1	
給 水 原 価 (D)	35.43	100.0	33.78	100.0	1.65	4.9	
給 水 原 価 内 訳	動 力 費	13.52	38.2	12.67	37.5	0.85	6.7
	減 価 償 却 費	9.50	26.8	11.51	34.1	△ 2.01	△ 17.5
	委 託 料	4.49	12.7	4.45	13.2	0.04	0.9
	修 繕 費	5.05	14.3	3.86	11.4	1.19	30.8
	そ の 他	3.79	10.7	1.97	5.8	1.82	92.4
	長 期 前 受 金 戻 入	△ 0.92	△ 2.6	△ 0.70	△ 2.1	△ 0.22	31.4
差 引 (C)-(D)	2.54	—	4.21	—	△ 1.67	—	

(注) 供給単価 =  $\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$       給水原価 =  $\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附帯事業費}) - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$

(円) 有収水量 1 m<sup>3</sup>当たりの供給単価及び給水原価の推移



#### (4) 収益性分析

事業の収益性を前年度と比較してみると、総収支比率及び経常収支比率はいずれも107.9%、営業収支比率は104.5%で5.7ポイントそれぞれ低くなっている。

各比率がいずれも低くなった主な要因は、原水及び浄水費の増などにより営業費用が前年度と比べ増加したことである。

また、営業収益に対する営業費用の割合は95.7%で前年度より5.0ポイント高くなっており、その内訳は、動力費が35.6%で2.2ポイント、修繕費等のその他が35.1%で8.0ポイントそれぞれ高く、減価償却費が25.0%で5.3ポイント低くなっている。

#### 収支比率の推移

(単位：%)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度 (A)	30年度 (B)	増 減 (B)-(A)
総 収 支 率 $\left\{ \frac{\text{総 収 益}}{\text{総 費 用}} \times 100 \right\}$	103.8	106.8	109.3	113.6	107.9	ポイント △ 5.7
経 常 収 支 率 $\left\{ \frac{\text{経 常 収 益}}{\text{経 常 費 用}} \times 100 \right\}$	103.8	106.8	109.3	113.6	107.9	△ 5.7
営 業 収 支 率 $\left\{ \frac{\text{営 業 収 益}}{\text{営 業 費 用}} \times 100 \right\}$	99.2	103.1	105.5	110.2	104.5	△ 5.7

#### 営業収益に対する営業費用の割合の推移

(単位：%)

区 分	26年度	27年度	28年度	29年度 (A)	30年度 (B)	増 減 (B)-(A)
営 業 収 益 に 対 する 割 合	営 業 費 用	100.8	97.0	94.8	90.7	95.7 ポイント 5.0
	減 価 償 却 費	51.9	48.5	50.1	30.3	25.0 △ 5.3
	動 力 費	28.8	27.2	28.7	33.4	35.6 2.2
	そ の 他	20.1	21.3	16.0	27.1	35.1 8.0

## 4 財政状態

### (1) 資産

資産総額は1億6,126万円で、前年度と比較して17万円増加している。

資産総額のうち固定資産は4,039万円で、前年度と比較して183万円減少している。この主な要因は、構築物が104万円、機械及び装置が55万円それぞれ減少したことである。

流動資産は1億2,086万円で、前年度と比較して200万円増加している。これは、現金・預金の増である。

### 固定資産及び減価償却の推移

(単位：千円)

年 度	固 定 資 産 年 度 末 残 高	減 価 償 却		固 定 資 産 償 却 未 済 高
		当 年 度 増 加 額	年 度 末 累 計 額	
26	141,434	9,903	90,221	51,213
27	141,434	3,588	93,810	47,624
28	141,434	3,367	97,177	44,256
29	141,434	2,028	99,206	42,228
30	138,262	1,671	97,864	40,397

(注) 平成26年度は、みなし償却制度の廃止に伴う移行処理を行った。

### (2) 負債

負債総額は407万円で、前年度と比較して33万円減少している。

負債総額のうち固定負債37万円は皆減している。これは修繕引当金の皆減である。

流動負債は94万円で前年度と比較して20万円増加している。この主な要因は、未払金が増加したことによるものである。

繰延収益は313万円で、前年度と比較して16万円減少している。

(3) 資本

資本総額は1億5,719万円で、前年度と比較して50万円増加している。

資本総額のうち資本金は1億495万円で、前年度と同額である。

剰余金は5,224万円で、前年度と比較して50万円増加している。これは、当年度未処分利益剰余金として当年度純利益50万円が生じたことによるものである。

貸借対照表

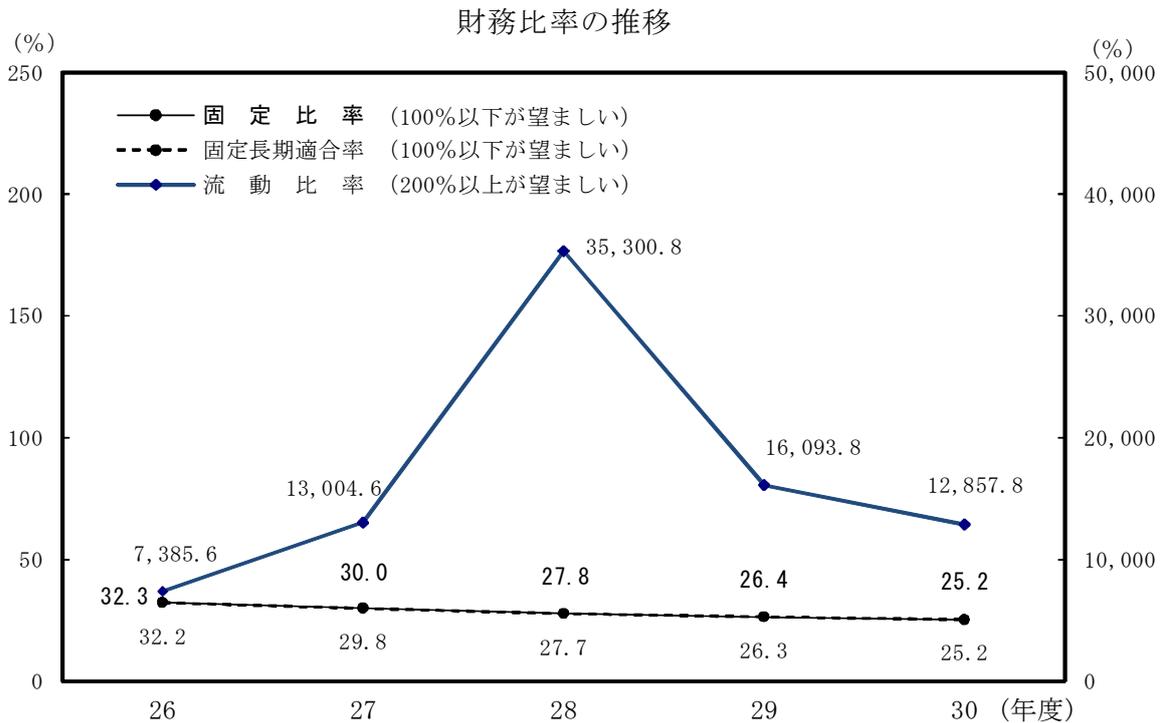
(単位：千円, %)

区 分	30 年 度 (A)	29 年 度 (B)	前 年 度 比 較	
			金 額 (A) - (B)	増減率
資 産	161,266	161,096	170	0.1
固 定 資 産	40,397	42,228	△ 1,830	△ 4.3
流 動 資 産	120,868	118,867	2,000	1.7
負 債	4,072	4,406	△ 334	△ 7.6
固 定 負 債	0	373	△ 373	皆減
流 動 負 債	940	738	201	27.3
繰 延 収 益	3,132	3,293	△ 161	△ 4.9
資 本	157,194	156,689	504	0.3
資 本 金	104,950	104,950	0	—
剰 余 金	52,243	51,739	504	1.0

(4) 財務比率

財務比率についてみると、自己資本（資本金＋剰余金＋繰延収益）に対する固定資産の割合を示す固定比率、長期資本（自己資本＋固定負債）に対する固定資産の割合を示す固定長期適合率ともに 25.2%で、前年度と比較して固定比率は 1.2 ポイント、固定長期適合率は 1.1 ポイント低くなっており、望ましいとされている比率 100%以下を示している。

流動負債に対する流動資産の割合を示す流動比率は 12,857.8%で、望ましいとされている比率 200%以上を示している。前年度と比較すると 3,236.0 ポイント低くなっており、この主な要因は、未払金が増加したことである。



## 5 資金の状況

当年度末における業務活動によるキャッシュ・フローは200万円で、前年度末と比較して76万円減少している。

投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローは発生していない。

当年度の資金期末残高は前年度末と比較して200万円増加し、1億1,993万円となっている。

### キャッシュ・フロー計算書（間接法）

（単位：千円）

区 分	30年度 (A)	29年度 (B)	増減(A)-(B)
1 業務活動によるキャッシュ・フロー			
当年度純利益	504	825	△ 320
減価償却費	1,671	2,028	△ 356
固定資産除却費	158	0	158
修繕引当金の増減額（△は減少）	△ 374	0	△ 374
長期前受金戻入額	△ 161	△ 122	△ 38
受取利息及び受取配当金	△ 57	△ 82	25
未払金の増減額（△は減少）	201	35	165
小計	1,943	2,684	△ 740
利息及び配当金の受取額	57	82	△ 25
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,000	2,766	△ 765
資金増加額（又は減少額）	2,000	2,766	△ 765
資金期首残高	117,934	115,168	2,766
資金期末残高	119,935	117,934	2,000

## 6 その他

### (1) 未収金

当年度末現在の未収金は給水収益93万円で、前年度と同額である。

なお、過年度分の未収金はない。

### 未収金の状況

（単位：千円）

年 度	給 水 収 益
30	932
当 年 度 末 (A)	932
前 年 度 末 (B)	932
(A) - (B)	0

## 7 むすび

工業用水道事業においては、総費用が増加したものの、当年度も50万円の純利益を計上しており、財務比率や収益率をみても、健全経営を維持しているといえる。

経営環境をみると、給水事業所や給水収益の増は見通せず、また、費用面においては、施設や設備の老朽化に伴い、改良・更新に要する経費の増加が予想される。

工業用水需要の減少傾向に伴い、施設利用率は近年20%台前半で推移していることから、施設の更新が必要な際には、将来の工業用水需要と使用効率等を総合的に勘案して施設規模を検討されたい。

今後とも、施設や設備の適切な維持管理と収益の確保に取り組み、産業活動に欠かせない工業用水の安定的供給に引き続き努められたい。

付 表

30年度工業用水道事業損益計算書……………	118
工業用水道事業損益計算書（対前年度比較）……………	120
30年度工業用水道事業貸借対照表……………	122
工業用水道事業貸借対照表（対前年度比較）……………	124
工業用水道事業キャッシュ・フロー計算書（対前年度比較）……………	126
工業用水道事業財務分析比率等比較表……………	128







(単位：円,%)

収 益 の 部				
科 目	30 年 度	29 年 度	前 年 度 比 較	
			金 額	増 減 率
営 業 収 益	6,684,643	6,693,543	△ 8,900	△ 0.1
給 水 収 益	6,684,643	6,693,543	△ 8,900	△ 0.1
営 業 外 収 益	218,948	205,240	13,708	6.7
受 取 利 息	57,351	82,378	△ 25,027	△ 30.4
長 期 前 受 金 戻 入	161,557	122,862	38,695	31.5
雑 収 益	40	0	40	皆増
合 計	6,903,591	6,898,783	4,808	0.1

30年度工業用水道事業貸借対照表

資 産 の 部			
科 目	金 額	内 容 比 率	構 成 比 率
固 定 資 産	40,397,851	100.0	25.1
有 形 固 定 資 産	40,397,851	100.0	25.1
建 物	7,385,378	18.3	4.6
構 築 物	28,877,632	71.5	17.9
機 械 及 び 装 置	4,134,841	10.2	2.6
流 動 資 産	120,868,817	100.0	74.9
現 金 ・ 預 金	119,935,913	99.2	74.4
未 収 金	932,904	0.8	0.6
合 計	161,266,668		100.0

(単位：円, %)

負債及び資本の部			
科目	金額	内容比率	構成比率
<b>流動負債</b>	<b>940,043</b>	<b>100.0</b>	<b>0.6</b>
未払金	566,143	60.2	0.4
引当金	373,900	39.8	0.2
修繕引当金	373,900	39.8	0.2
<b>繰延収益</b>	<b>3,132,339</b>	<b>100.0</b>	<b>1.9</b>
長期前受金	8,343,316	266.4	5.2
県費補助金	8,343,316	266.4	5.2
収益化累計額	△ 5,210,977	△ 166.4	△ 3.2
県費補助金	△ 5,210,977	△ 166.4	△ 3.2
<b>負債合計</b>	<b>4,072,382</b>		<b>2.5</b>
<b>資本金</b>	<b>104,950,614</b>	<b>100.0</b>	<b>65.1</b>
<b>剰余金</b>	<b>52,243,672</b>	<b>100.0</b>	<b>32.4</b>
利益剰余金	52,243,672	100.0	32.4
利益積立金	9,590,000	18.4	5.9
建設改良積立金	42,149,098	80.7	26.1
当年度未処分利益剰余金	504,574	1.0	0.3
当年度純利益	504,574	1.0	0.3
<b>資本合計</b>	<b>157,194,286</b>		<b>97.5</b>
<b>合計</b>	<b>161,266,668</b>		<b>100.0</b>



(単位：円,%)

負債及び資本の部				
科 目	30 年 度	29 年 度	前 年 度 比 較	
			金 額	増 減 率
固 定 負 債	0	373,900	△ 373,900	皆減
引 当 金	0	373,900	△ 373,900	皆減
修 繕 引 当 金	0	373,900	△ 373,900	皆減
流 動 負 債	940,043	738,593	201,450	27.3
未 払 金	566,143	364,593	201,550	55.3
引 当 金	373,900	374,000	△ 100	△ 0.0
修 繕 引 当 金	373,900	374,000	△ 100	△ 0.0
繰 延 収 益	3,132,339	3,293,896	△ 161,557	△ 4.9
長 期 前 受 金	8,343,316	9,117,208	△ 773,892	△ 8.5
県 費 補 助 金	8,343,316	9,117,208	△ 773,892	△ 8.5
収 益 化 累 計 額	△ 5,210,977	△ 5,823,312	612,335	△ 10.5
県 費 補 助 金	△ 5,210,977	△ 5,823,312	612,335	△ 10.5
負 債 合 計	4,072,382	4,406,389	△ 334,007	△ 7.6
資 本 金	104,950,614	104,950,614	0	—
剰 余 金	52,243,672	51,739,098	504,574	1.0
利 益 剰 余 金	52,243,672	51,739,098	504,574	1.0
利 益 積 立 金	9,590,000	9,590,000	0	—
建 設 改 良 積 立 金	42,149,098	41,323,990	825,108	2.0
当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	504,574	825,108	△ 320,534	△ 38.8
当 年 度 純 利 益	504,574	825,108	△ 320,534	△ 38.8
資 本 合 計	157,194,286	156,689,712	504,574	0.3
合 計	161,266,668	161,096,101	170,567	0.1

工業用水道事業キャッシュ・フロー計算書（対前年度比較）

区 分	30 年 度
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純利益	504,574
減価償却費	1,671,771
固定資産除却費	158,613
修繕引当金の増減額（△は減少）	△ 374,000
長期前受金戻入額	△ 161,557
受取利息及び受取配当金	△ 57,351
未払金の増減額（△は減少）	201,550
小計	1,943,600
利息及び配当金の受取額	57,351
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,000,951
資金増加額（又は減少額）	2,000,951
資金期首残高	117,934,962
資金期末残高	119,935,913

（注）本表は、間接法により作成している。

(単位：円)

29年度	増減額
825,108	△ 320,534
2,028,620	△ 356,849
0	158,613
0	△ 374,000
△ 122,862	△ 38,695
△ 82,378	25,027
35,702	165,848
2,684,190	△ 740,590
82,378	△ 25,027
2,766,568	△ 765,617
2,766,568	△ 765,617
115,168,394	2,766,568
117,934,962	2,000,951

工業用水道事業財務分析比率等比較表

分析項目		算式	30年度 (A)
構成比率	自己資本構成比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$	$\frac{160,326,625}{161,266,668} \times 100$
財務比率	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$	$\frac{40,397,851}{160,326,625} \times 100$
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{長期資本}} \times 100$	$\frac{40,397,851}{160,326,625} \times 100$
	負債比率	$\frac{\text{負債}}{\text{自己資本}} \times 100$	$\frac{4,072,382}{160,326,625} \times 100$
	固定負債比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{自己資本}} \times 100$	$\frac{0}{160,326,625} \times 100$
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	$\frac{120,868,817}{940,043} \times 100$
	当座比率 (酸性試験比率)	$\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	$\frac{120,868,817}{940,043} \times 100$
収益率	総資本利益率	$\frac{\text{純利益}}{\text{平均総資本}} \times 100$	$\frac{504,574}{161,181,385} \times 100$
	自己資本利益率	$\frac{\text{純利益}}{\text{平均自己資本}} \times 100$	$\frac{504,574}{160,155,117} \times 100$
	総収支比率	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	$\frac{6,903,591}{6,399,017} \times 100$
	経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	$\frac{6,903,591}{6,399,017} \times 100$
	営業収支比率	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$	$\frac{6,684,643}{6,399,017} \times 100$
	純利益対総収益比率	$\frac{\text{純利益}}{\text{総収益}} \times 100$	$\frac{504,574}{6,903,591} \times 100$

(単位：円，%)

	29 年度 (B)	28 年度 (C)	対前年度増減	
			30 年度 (A) - (B)	29 年度 (B) - (C)
99.4	99.3	99.3	ポイント 0.1	ポイント 0.0
25.2	26.4	27.8	△ 1.2	△ 1.4
25.2	26.3	27.7	△ 1.1	△ 1.4
2.5	2.8	2.8	△ 0.3	0.0
—	0.2	0.5	皆減	△ 0.3
12,857.8	16,093.8	35,300.8	△ 3,236.0	△ 19,207.0
12,857.8	16,093.8	35,300.8	△ 3,236.0	△ 19,207.0
0.3	0.5	0.4	△ 0.2	0.1
0.3	0.5	0.4	△ 0.2	0.1
107.9	113.6	109.3	△ 5.7	4.3
107.9	113.6	109.3	△ 5.7	4.3
104.5	110.2	105.5	△ 5.7	4.7
7.3	12.0	8.5	△ 4.7	3.5

